
北海道浮魚ニュース

令和 4(2022)年度 15 号

2022 年 9 月 15 日

道総研 釧路水産試験場

http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html

◎道東太平洋 9 月浮魚類分布調査結果

沖合の浮き魚分布量は少ない

マイワシは 14cm 台が主体

試験調査船北辰丸(釧路水産試験場所属)によって行われた 9 月浮魚類分布調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2022 年 9 月 1～8 日
- ・ 調査方法：流し網を用いた漁獲調査（原則 17 時投網，翌 5 時揚網）
計量魚群探知機による魚探反応の計測
船底温度計（水深 3.4m）による水温観測，CTD および XCTD による海洋観測
NEAR-GOOS[※]表面水温の解析
※http://ds.data.jma.go.jp/gmd/goos/data/rrtdb/data_usage_J.html
- ・ 調査海域：道東太平洋海域

1. 水温分布

2022 年 9 月の道東太平洋海域では，十勝から根室の沿岸近くで表面水温が 17～19℃台であった一方で，沖合域の広い範囲で表面水温が 20℃を超えていました（図 1 左上）。2021 年 9 月調査時における同海域の表面水温分布と比べ全体的に水温が高いほか（図 1 右上），2020 年と比べると高水温の海域がより北東に張り出していました（図 1 左下）。

2. 計量魚探調査

全体的に魚探反応が見られた 2021 年調査や，沿岸付近での反応が多かった 2020 年調査と比べて，2022 年調査時の魚探反応量は全体的に少ない結果となりました（図 1）。平均魚探反応量（ m^2/nmi^2 ）は 415 で，2021 年および 2020 年調査時の平均魚探反応量（それぞれ 692 および 684）と比べて約 40%減少しました。

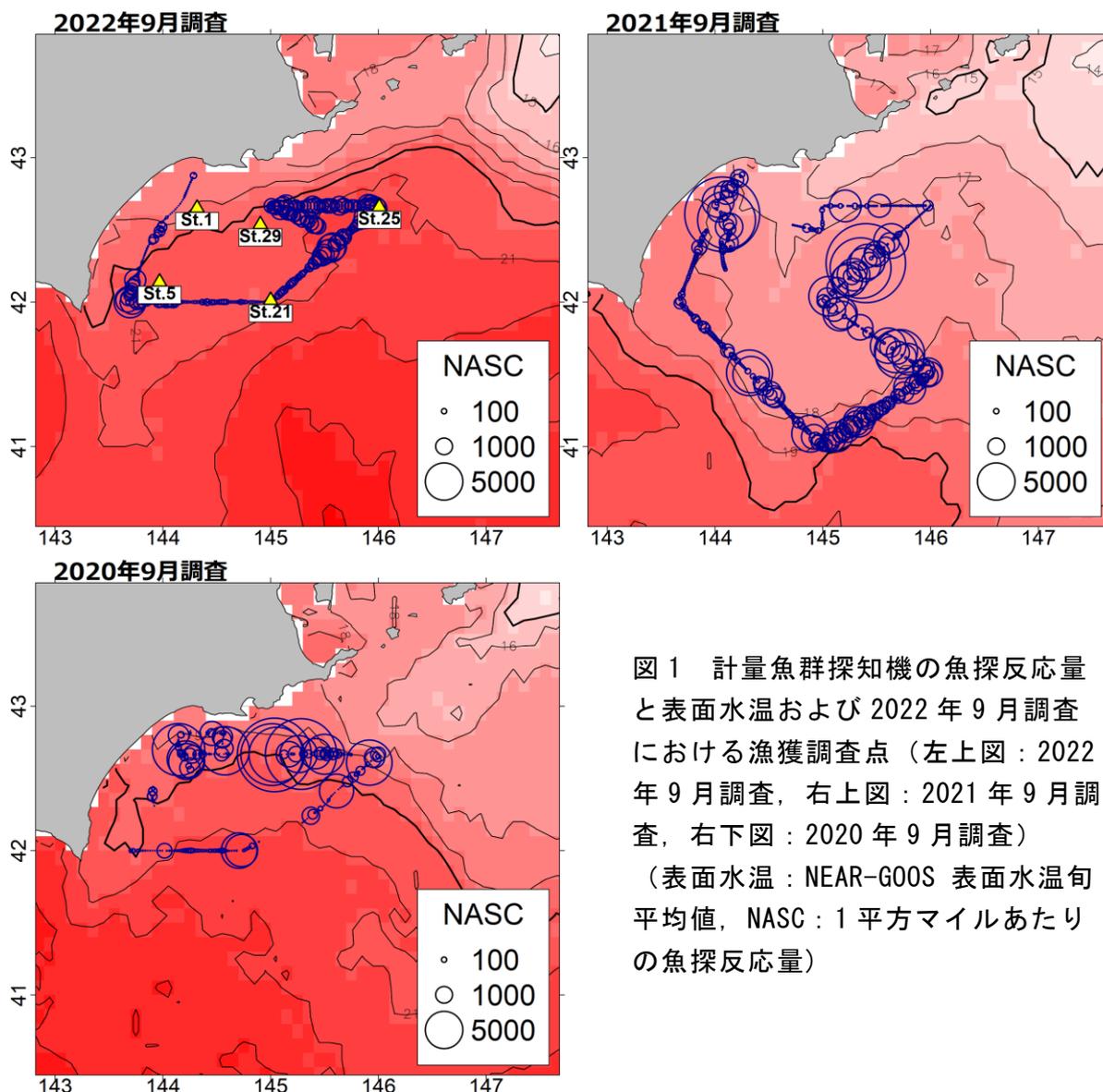


図1 計量魚群探知機の魚探反応量と表面水温および2022年9月調査における漁獲調査点（左上図：2022年9月調査，右上図：2021年9月調査，右下図：2020年9月調査）
（表面水温：NEAR-GOOS 表面水温旬平均値，NASC：1平方マイルあたりの魚探反応量）

3. 流し網調査

調査期間中，流し網による漁獲調査を5点で実施しました（図1左上，表1）。サバ類は合計1,845尾，マイワシは3,090尾，カタクチイワシは132尾漁獲され，サンマの漁獲はありませんでした。調査点は北緯42度台，東経143～146度台に設定しましたが，このうち沿岸に近く表面水温の低いSt.1でのみ，まとまった漁獲がみられました（表1，図2）。

漁獲されたサバ類は体長20cm以上の個体がほとんどを占めました。マイワシは体長14cm台を中心に漁獲され，カタクチイワシは体長13cm台が全体の80%以上を占めました（図3）。

1操業あたりの平均漁獲尾数はサバ類が369尾，マイワシが618尾，カタクチイワシが26尾でした。サバ類は2021年より多く，マイワシおよびカタクチイワシは2021年よりも少ない結果となりました（図4）。

表 1 各調査点の位置，投網日，水温および魚種別漁獲尾数

2022年度9月浮魚類分布調査(流し網)

調査点 番号	投網日	漁獲位置		水温 (°C)			漁獲尾数(反数引き延ばし)			
		北緯	東経	0m	50m	100m	サバ類	マイワシ	カタクチ	サンマ
29	9/2	42-32	144-54	21.1	10.6	6.8	3	0	0	0
25	9/3	42-40	146-01	21.7	12.6	9.7	0	0	0	0
21	9/4	42-01	145-00	21.3	7.8	4.7	9	14	5	0
5	9/5	42-08	143-58	20.6	7.1	5.6	5	19	0	0
1	9/7	42-39	144-19	18.2	11.2	7.4	1,828	3,057	127	0

※漁獲尾数は 2019 年以前の反数に換算した値

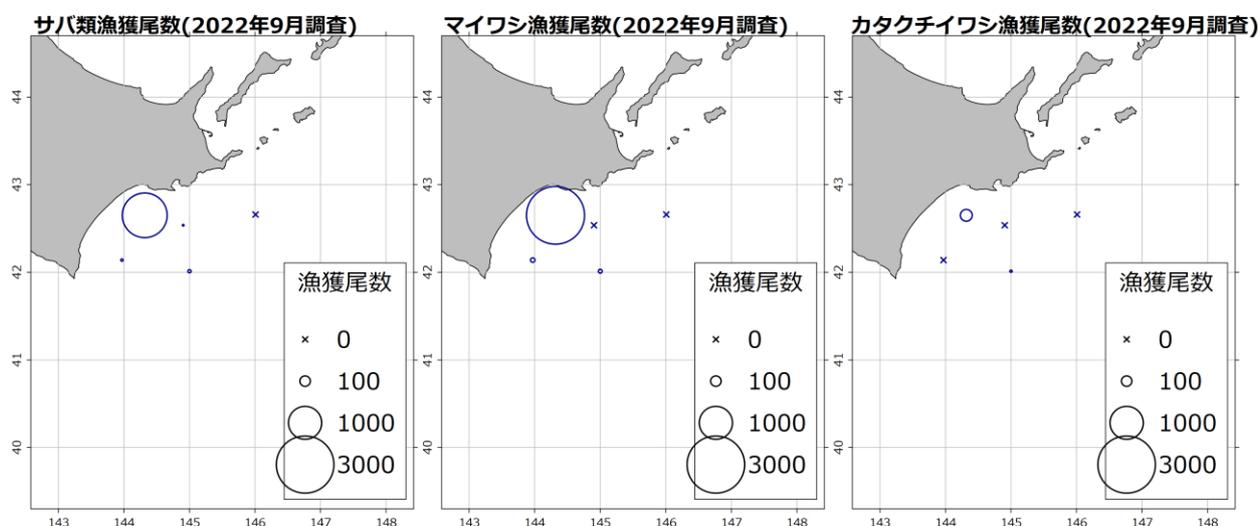


図 2 各魚種の調査点別漁獲尾数

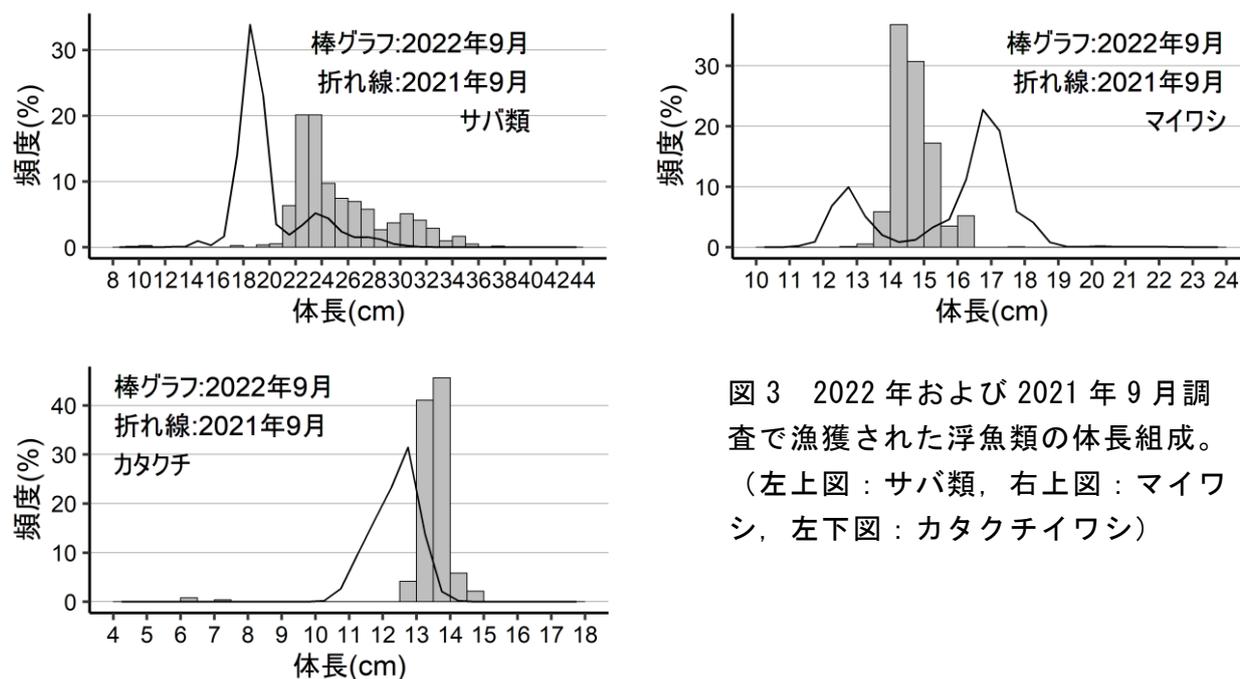


図 3 2022 年および 2021 年 9 月調査で漁獲された浮魚類の体長組成。
(左上図：サバ類，右上図：マイワシ，左下図：カタクチイワシ)

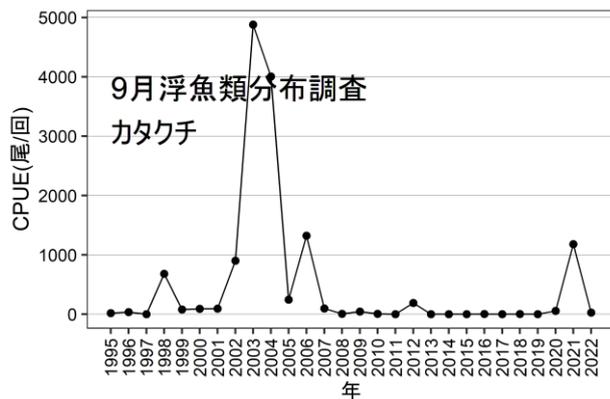
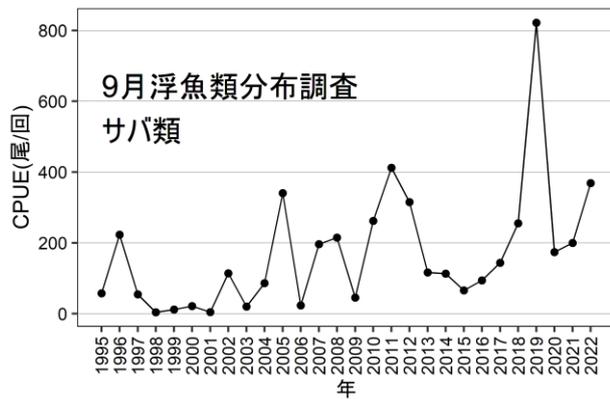


図4 9月調査で漁獲された浮魚類のCPUEの経年変化（CPUEは1操業あたりの平均漁獲尾数）

4. 浮魚類の分布について

2022年の計量魚探調査では2021年や2020年調査と比べて反応量が減少しました。

計量魚探調査を実施した海域の表面水温は、2021年および2020年調査時と比べて全体的に高く、表面水温 20℃以上の水で覆われていました。さらに、2022年の流し網調査点のうち、まとまった漁獲の見られなかった4点（St. 29, St. 25, St. 21およびSt. 5）では、いずれも表面水温が 20℃を上回っていました。

これらのことから、2022年の道東沖における浮魚類について、調査を行った沖合の表面水温 20℃以上の海域での分布密度が低かった可能性が考えられます。

流し網調査の詳細：9種類の目合の流し網を用いた漁獲試験（付表）。原則 17 時投網，翌 5 時揚網。2020 年度から各目合の反数を変更しました。過去の調査結果との比較のため漁獲尾数および CPUE（流し網 1 操業あたりの平均漁獲尾数）は 2019 年度以前の反数（182 mm を除く）に換算した値を用いました。

付表 9月浮魚調査における流し網の目合別反数

目合 mm	22	25	29	37	48	55	63	72	82	182
2020年～	2	2	4	2	2	2	2	4	4	0
～2019年	1	1	4	4	2	1	1	1	2	12